

第56回の概要

会を引っ張ってきた三木先生が開業、この4月には竹田先生も異動となり、どうするか悩んでいました。会の発足に関わった大内先生にも戻ってきてもらいました。

今回のテーマは補剤の使い分け



整形外科の術後のしんどすぎてリハビリ進まない高齢者。



気、血、水のどれを補うかを考察。

補気+補血は十全大補湯でいいのですが、

人参養栄湯 と十全大補湯の違いは「五味子、遠志、陳皮」が入っていること。

特にせん妄があって、全身倦怠がある高齢者は、精神安定作用のある「遠志」が入っている此方のほうが使いやすい。いずれも「止咳」作用があるので上気道症状がある高齢者も多く良い適応となる。

大腿骨頸部骨折術後の患者の証を考える。

骨折部からの出血 → 血虚

全身倦怠感 → 気虚

出血からの脱水 → 陰虚
局所の腫脹、血腫、熱感 → 瘀血
ストレス、夜間不眠 → 気鬱

もともと冷え性の人であっても、ほとんど熱証になっている。
竹田先生の解説も熱が入ってきます。



しんどすぎて動けない術後患者
→ 気血両虚 + 陰虚
気、血、水を補って、清熱。
舌診では、真っ赤な鏡面舌 + 白苔
となると「人参養栄湯 + 清心蓮子飲」



いつものように、
腹診で正中芯、胸脇苦満などを解説

スライドでは 補剤を因数分解
四物湯：補血剤ベース
四君子湯：補気剤ベース

を足したのが十全大補湯

人参養栄湯との使い分け

清心蓮子飲は滋陰清熱を足して

加味帰脾湯は気鬱に配慮

最後に懐かしのメンバーで記念撮影です。

